



Title	ツングース諸語のWH関連構文の分布に対する類型的考察
Author(s)	白, 尚燁
Description	資料・研究ノート
Citation	北方言語研究, 2, 163-181
Issue Date	2012-03-26
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/49260
Type	other
File Information	10bekku.pdf



[資料・研究ノート]

ツングース諸語のWH関連構文の分布に対する類型的考察

白 尚 燁

(北海道大学大学院修士課程)

0. はじめに

本稿は、ツングース諸語に見られる関連構文を二つの統語的特徴（関連構文のタイプ、関連構文の動詞構造）に基づいて類型化し、中国語とロシア語の影響の可能性について考察することを目的とする。ただし、本稿における言語接触は、古くからあったとみられるモンゴル諸語やチュルク諸語による言語接触の可能性は扱わず、比較的最近に起きたと考えられる中国語とロシア語からの影響に限定して議論する。また本稿のツングース諸語に見られる関連構文の類型的考察は、各言語において関連構文の用例が質量とも十分でないため、仮説の段階であることをことわっておきたい。

1. 研究前提

白（2010）では、ウデヘ語、中国語、ロシア語の関連構文について従属節と主節において対応する要素に注目し、① 疑問詞－疑問詞型、② 疑問詞－指示詞型、③ 疑問詞－ゼロ型¹の三つのタイプに分け、それぞれの統語的特徴について考察を行った。その結果、ウデヘ語の関連構文には、下記のように中国語・ロシア語の関連構文の統語的特徴が混在していることが見られた。

1.1. 関連構文のタイプ²

ウデヘ語

a. WH-WH type

全ての疑問詞において、疑問詞－疑問詞型の関連構文が見られる。

- 1) *nii baa-mi, nii xente*³.

who find- SIM.CONV who owner

「見つける者は（誰でも）主人である。」

風間 2007: 193

b. WH-DEM type

数量を表わす疑問詞*adi*「いくつ」以外の全ての疑問詞に疑問詞－指示詞型の関連構文が見られる。

¹ 疑問詞－ゼロ型はウデヘ語、中国語、ロシア語に共通して見られるため、本稿では扱わない。

² 本稿では紙面の制約からウデヘ語、中国語、ロシア語の関連構文の用例を一部だけ紹介する。多くの用例は白（2011: 101-114）を参照していただきたい。

³ 用例の引用にあたり、表記を一部改めた。なお、/e/の実際の音価は[ə]であるが、便宜上/e/で統一する。またグロスと和訳も本稿筆者による。

- 2) *nii cai-la xetigene-mi, uti ete-i-ni.*
 who far-LOC jump-SIM.CONV that win-PRS.PTCP-3SG
 「遠くへジャンプする者は（誰でも）勝つ。」

Nikolaeva & Tolskaya 2001: 763

中国語

a. WH-WH type

全ての疑問詞に疑問詞－疑問詞型の相関構文が見られる。

- 3) *shuí xiān lái, shuí xiān chī.*
 who first come who first eat
 「先に来る者は（誰でも）先に食べる。」

Cheng & Huang 1996: 127

b. WH-DEM type

Cheng & Huang (1996: 127-130) によると、中国語のWH相関構文⁴では、主節に疑問詞の代わりに指示詞を用いることはできないと指摘されている⁵。

ロシア語

a. WH-WH type

ロシア語の相関構文に疑問詞－疑問詞型の相関構文は見られない。

b. WH-DEM type

全ての疑問詞において、疑問詞－指示詞型の相関構文が見られる。

- 4) *kto odoleet, tot i prav.*
 who.NOM.M.SG win.PF.PRS.3SG that.NOM.M.SG EMPH right.NOM.M.SG
 「勝つ者は（誰でも）正しい。」

Leckey 2001: 12

1.2. WH相関構文の動詞構造

さらに、相関構文の左側に位置する従属節（関係節）の動詞形式が、文として自立できる終止形（定動詞形または形動詞形）、文として自立できない非終止形のどちらの形式となっているかに注目する。

ウデヘ語

ウデヘ語のWH相関構文における従属節（関係節）は、それだけで文として成り立たない非終止形と、文として成り立つ終止形、二つの形式がともに見られる。

⁴ Cheng & Huang (1996) では、本稿で相関構文として扱っているものを、条件標識を持たない *WH-conditionals* と捉えているが、筆者は、Luo & Crain (2011: 753-798) の指摘どおり、相関構文と類似している性質が見られるため、相関構文と見なす。

⁵ 一部の疑問詞においては、疑問詞－指示詞型の相関構文が見られるが、ウデヘ語とロシア語のように生産的ではないため、例外的な表現であると推定される（白 2011: 107 参照）。

①非終止形

ウデヘ語のWH相關構文における非終止形には二つの形式、同時副動詞形と条件副動詞形が見られる。

・同時副動詞：V-*mi*

- 5) *nakta-wa kiana-wa, jeu ise-mi, jeu waa-i.*
 boar-ACC dear-ACC what see-SIM.CONV what hunt-PRS.PTCP
 「イノシシを、アカシカを、見えるものを（何でも）獲る。」

風間 2007: 219

・条件副動詞：V-(*l*)*isi*-personal suffix

- 6) *ile ηene-isi-ni, ile buji-we waa-mi,*
 where go-COND.CONV-3SG where game-ACC kill-SIM.CONV
zulie-le-ni nede-i-ni.
 front-LOC-3SG put-PRS.PTCP-3SG
 「彼が行くところには、（どこでも）（トラが）獲物を殺し、彼の前に置く。」

風間 2004: 512

②終止形

また、ウデヘ語のWH相關構文には、非終止形以外に文を終止できる終止形も使われる。これは、従属節が副動詞形、すなわち非終止形を取るアルタイ型言語においてあまり一般的な構造ではない。

- 7) *ile kanjoo-la-i, ile=dem teu bie.*
 where ginseng searching-VBLZ-PRS.PTCP where=CLT all be
 「私の人参探りをするところには（どこでも）すべてある。」

風間 2007: 226

中国語

中国語は、テンスを持たず、語順によって文法的機能を表わす孤立語であり、動詞の非終止形と終止形の判断が容易ではないため、動詞構造に関する判断は保留しておく。

ロシア語

ロシア語における関係節の動詞構造は、すべて終止形のみ見られるため、関係節の一つであるWH相關構文にも終止形のみ存在すると見なす。

1.3. まとめ

以上、ウデヘ語・中国語・ロシア語のWH相關構文を二つの統語的特徴（相關構文のタイプ、相關構文の動詞構造）に基づき、分類してみると、次のようにまとめられる。

	type of correlatives		verbal form	
	WH-WH	WH-DEM	finite	non-finite
Udihe	○	○	○	○
Chinese	○	×	?	?
Russian	×	○	○	×

表1 ウデヘ語・中国語・ロシア語における相関構文のタイプ及び動詞構造

ウデヘ語に見られるWH相関構文が、周辺言語である中国語・ロシア語の影響によって生じたと断定するのは難しいが、ウデヘ語に中国語に見られる疑問詞－疑問詞型の相関構文が存在し、ロシア語の相関構文に見られる終止形の動詞構造が確認されることから、中国語とロシア語からの影響を仮定することができる。

以上の研究前提に基づき、ツングース諸語全般に見られる相関構文の類型化を試みる。そのため、ツングース諸語の文法書、テキストからWH相関構文の用例を収集し、WH相関構文の統語的特徴によってツングース諸語を再分類し、その結果を類型化する。

2. ツングース諸語におけるWH相関構文

Ikegami [2001 (1974): 395]によるツングース諸語の分類は次のようである。

- 第Ⅰ群：エウエン語（ラムート語）、エウエンキー語、ソロン語、ネギダル語
- 第Ⅱ群：ウデヘ語、オロチ語
- 第Ⅲ群：ナーナイ語、オルチャ語、ウイльта語（オロッコ語）
- 第Ⅳ群：満洲語、女真語

このうち、WH相関構文の用例が見られた下記の言語を対象に、ツングース諸語の相関構文に見られる類型的考察を行う。

- 第Ⅰ群：エウエン語、エウエンキー語、エウエンキー語（アムール方言）、ソロン語、ネギダル語
- 第Ⅱ群：ウデヘ語、オロチ語
- 第Ⅲ群：ナーナイ語、ホジェン語⁶、オルチャ語、ウイльта語
- 第Ⅳ群：満洲語、シベ語

ツングース諸語の分布は次のとおりである。

⁶ ホジェン語は、音韻対応により第Ⅱ群に属するという見解（風間 1996）もあるが、本稿では従来の記述に従い、ナーナイ語の中国領方言と見ておく。なお次の図の中では、Kilen Nan.と示されている。

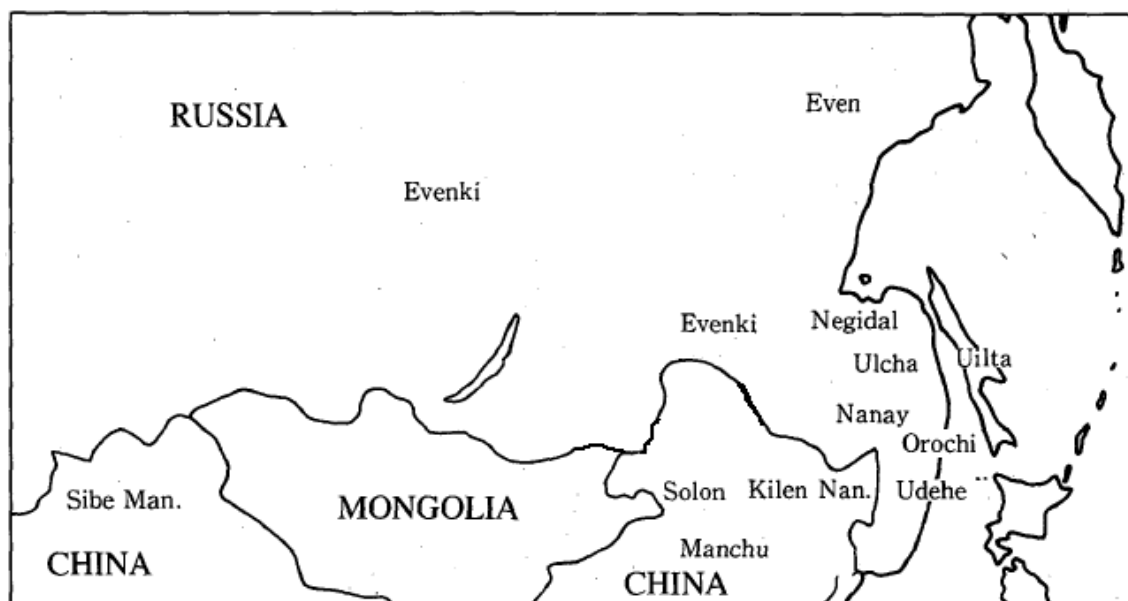


図1 ツングース諸語の分布 (Tsumagari 1997: 176を一部改変)

ツングース諸語におけるロシア語・中国語の影響を検討するにあたって、津曲 (1996)、Tsumagari (1997) にならい、個々の言語の分布域が含まれる国家に基づき、ツングース諸語を中国領ツングース諸語とロシア領ツングース諸語の二つに分ける。

- ・中国領ツングース諸語：ソロン語、ホジェン語、満洲語、シベ語
- ・ロシア領ツングース諸語：エウエンキー語、エウエン語、ネギダル語、ウルチャ語、ナーナイ語、オロチ語、ウデヘ語、ウイルタ語

2. 1. 中国領ツングース諸語におけるWH相關構文

2. 1. 1. ソロン語

ソロン語には、疑問詞－疑問詞型の相關構文のみが確認され、疑問詞－指示詞型の相關構文の例は見つからなかった。WH相關構文における従属節の動詞構造を見ると、それだけでは文として自立できない非終止形である、条件副動詞形-*kki*が用いられる。ただし、下記の相關構文の用例は自然発話が収められているソロン語のテキストからではなく、ソロン語話者から中国語の例文にもとづいて得られた用例であるため、もとの中国語に引きずられた可能性がある。

a. WH-WH type (non-finite form only)

- 8) *ooxi* *gada-kki-si,* *ooxi* *buu-gde.*
 how many need-COND.CONV-2SG how many give-1SG.OPT
 「要るだけあげる。」

朝克 et al. 1991: 26

- 9) *ooxi xindakkoŋ bi-kki-wi, ooxi aja.*
 how much cheap be-COND.CONV-3SG how much good
 「安ければ安いほどよい。」

ibid. 38

b. WH-DEM type

疑問詞－指示詞型の相関構文の例は見つからない。

2.1.2. ホジェン語

従来ナーナイ語の方言と見なされるホジェン語にも、疑問詞－疑問詞型の相関構文が見られる。相関構文の動詞構造を見ると、文として自立できない非終止形の条件副動詞-*ki-*のみが確認される。このような相関構文は、李（2011: 214－215）にも確認される。

a. WH-WH type (non-finite form only)

- 10) *ni ei ilan zhake-we gazhi-ki-ni,*
 who this three thing-ACC bring-COND.CONV-3SG
bi asen xite-i ni-du bu-i.
 I daughter-GEN who-DAT give-1SG
 「この三つのものを取ってきた人には（誰にも）自分の娘を与える。」

Tamura 2008: 49

- 11) *etiki ni tiaxe-le-ki, ni enemichebusu.*
 from now who want-COND.CONV who should try to go
 「これからは、望む者は（誰でも）行ってみるのがよい。」

ibid. 50

b. WH-DEM type

疑問詞－指示詞型の相関構文の例は見つからない。

2.1.3. 満洲語

筆者がざっと見た限りでは、従来の満洲語文献には相関構文の用例が見つからないが、満洲語文語の文法書である Avrorin (2000: 231-232)によると、満洲語には同じ疑問詞を反復する相関構文が見られ、最初の疑問詞は副動詞節に位置し、同じ疑問詞が主節に現れると記述している。疑問詞－疑問詞型の相関構文が見られる疑問詞は下記のとおりである。相関構文の動詞構造は、ソロン語、ホジェン語と同じく非終止形の条件副動詞-*ci*のみ見られる。

ai-ai (what-what) / *we-we* (who-who) / *aibe-aibe*(what.ACC-what.ACC) / *webe-webe* (whom-whom) / *wede-wede* (to who-to who) / *aimaka-aimaka* (how-how) / *udu-udu* (how many-how many) / *atangi-atangi* (when-when) / *absi-absi* (to where-to where) / *ele-ele* (at where-at where)

Avrorin 2000: 231

a. WH-WH type (non-finite form only)

- 12) *sin-de ai-be cihala-ci, ai-be urunakū bu-ki*⁷.
 you.SG-DAT what-ACC want-COND.CONV what-ACC surely give-OPT
 「あなたに（あなたの）欲しいものを（何でも）必ずあげよう。」

ibid. 232

- 13) *absi si mim-be sinda-ci, absi jo-ki*.
 where 2SG.NOM me-ACC let go-COND.CONV where go out-OPT
 「あなたが私を放すところには（どこへも）私は行きたい。」

ibid. 232

b. WH-DEM type

疑問詞－指示詞型の相關構文の例は見つからない。

2. 1. 4. シベ語

シベ語の文法書Li et al (1986)にも、疑問詞－疑問詞型の相關構文の用例が見られる。相關構文の動詞構造を見ると、ソロン語、ホジェン語、満洲語と同じく非終止形である条件副動詞形-*ce*が用いられる。

a. WH-WH type (non-finite form only)

- 14) *ame-ni ai se-ce, xaxezi-ni ai-v are-m*.
 father-3SG what say-COND.CONV son-3SG what-ACC do-PRS
 「息子は彼の父の言うことを（何でも）やる。」

Li et al. 1986: 131

b. WH-DEM type

疑問詞－指示詞型の相關構文の例は見つからない。

2. 1. 5. まとめ

以上、相關構文の統語的特徴に基づき、中国領ツングース諸語のWH相關構文の用例を分析した結果、次の傾向がみられた。

	type of correlatives		verbal form	
	WH-WH	WH-DEM	non-finite	Finite
Solon	○	×	- <i>kki</i> - (COND.CONV)	×
Hezhe	○	×	- <i>ki</i> - (COND.CONV)	×
Manchu	○	×	- <i>ci</i> (COND.CONV)	×
Sibe	○	×	- <i>ce</i> (COND.CONV)	×

表2 中国領ツングース諸語の相關構文の統語的特徴

⁷ 例文の中、相關構文のところだけ抜粋していることを断っておく。

- ①疑問詞－疑問詞型の相関構文のみ見られる。
- ②従属節の構造は条件副動詞で、非終止形のみ見られる。

2.2. ロシア領ツングース諸語におけるWH相関構文

2.2.1. エウエンキー語

池上（2004）は、エウエンキー語の北方言に疑問詞が関係詞として働く現象が見られると記述している。

ツングース語の内部へのロシア語の強い影響もみられます。たとえばエウエンキー語の北の方言のある話し手においては、疑問代名詞が関係代名詞的機能を持つようになっているとみられる語例があります。

池上 2004: 120

池上（2002a）のエウエンキー語テキストを参照すると、ロシア語に見られる疑問詞－指示詞型の相関構文の例が確認される。

a. WH-WH type

疑問詞－疑問詞型の相関構文は見つからない。

b. WH-DEM type (finite form)

- 15) *ŋi tumi-zɛ-n mawut-u-t mo-wa, tar dawdu-wki.*
 who hit-IMPf-PRS.3SG lasso-E-INS tree-ACC that win-HAB.PTCP
 「投げ縄で木に命中する人は（誰でも）勝つ。」

池上 2002a: 352

- 16) *ŋi alba-wki tumi-zɛ-mi tujewun-me,*
 who cannot-HAB.PTCP hit-IMPf-CONV pole-ACC
tara xalza-wkan-i-wki-l.
 that.ACC embarrass-CAUS-E-HAB.PTCP-PL
 「棒に命中することができない人を（誰でも）恥ずかしがらせる。」

ibid. 352

また、エウエンキー語複文の統語構造に関する記述Brodskaja (1988: 84)にも、疑問副詞を用いる相関構文が見られ、疑問詞が関係詞的な働きをし、主節には関係節の疑問詞に対応する指示詞が用いられる用例が見られる。また、動詞構造に関しては、従属節は終止形の述語を取ると指摘している。

2.2.1.1. エウエンキー語（アムール方言）

エウエンキー語のアムール方言に関する文法書であるBulatova (1987: 70)では、対を成す接続詞が使われると記述され、相関構文の用例を多く示している。WH相関構文の構成する疑問詞は下記のとおりである。相関構文の動詞構造に関しては、全ての用例において

終止形をとる。

[*īdū-tadū* (where-there), *īdūk-tadūk* (from where-from there), *īlē-talā* (at where-at there), *īlī-talī* (toward where-toward there), *ōn-targacin* (which-that), *ōkin-tēli* (when-then)]

Bulatova 1987: 70

a. WH-WH type

疑問詞－疑問詞型の相関構文は見つからない。

b. WH-DEM type (finite form only)

- 17) *īdū bū anṇat-cā-bun, tadū aja zukcā.*
 where we stay-PST.PTCP-1PL.EXC there good accommodation
 「我々が泊まった所は（どこでも）よい宿泊先だった。」

ibid. 70

- 18) *okin sī ororbo baka-ziṇā-s, tēli nulgi-ziṇē-t.*
 when 2SG.NOM deer find-FUT.PTCP-2SG then stay-FUT.PTCP-1PL.INCL.
 「あなたが鹿を見つけるときには（いつでも）私たちは留まる。」

ibid. 70

2.2.2. エウエン語

エウエン語に関しては相関構文の用例及び先行研究はほとんど見当たらないが、Malchukov (2008) では、従属節には疑問詞が、主節に相関的な指示詞が用いられる相関構文の用例が見られ、ここでは動詞構造は終止形の形をとっている。

a. WH-WH type

疑問詞－疑問詞型の相関構文は見つからない

b. WH-DEM type (finite form only)

- 19) *xi ṇi-du dabdu-ca-s, ta-la xər-zi-m.*
 2SG.NOM who-DAT lose-PST.PTCP-2SG that-LOC go-FUT-1SG
 「私はあなたの負けた人のところには（どこへも）行くだろう。」

ibid. 238

2.2.3. ネギダル語

ネギダル語に関しては、ネギダル語テキストTsintsius (1982)、Pevnov & Khasanova (2003) からは、相関構文の例が見つからず、風間 (2002) のネギダル語文法書にのみ相関構文の言及と用例が見られる。ただし、これは調査の際、もとのロシア語表現 (20-2) に引きずられた可能性のある用例である。

a. WH-WH type

疑問詞－疑問詞型の相関構文はみあたらない。

b. WH-DEM type (finite form only)

- 20-1) *nii e-te-ji denji beje, taj a-ta-n zep-pe.*
 who NEG-FUT-REF work person that NEG-FUT-3S eat-CNG
 「働かない者は（誰でも）食べない。」

風間 2002: 89,111

ロシア語

- 20-2) *kto ne rabotaet, tot ne est.*
 who.NOM.M.SG NEG work.IMPF.PRS.3SG that.NOM.M.SG NEG eat.IMPF.PRS.3SG
 「働かない者は（誰でも）食べない。」

ibid. 89

2.2.4. ウルチャ語

ウルチャ語には、疑問詞－疑問詞型、疑問詞－指示詞型、両方の相関構文が見られ、動詞構造においても終止形と非終止形の形式がともに存在する。そのうち、非終止形には条件副動詞が用いられる。

a. WH-WH type (finite form)

- 21) *bi xoon di-ci, xoon ηenu-i.*
 1SGNOM how come-PST.PTCP.1SG how go-PRS.PTCP.1SG
 「私は来たように行く。」

Sunik 1985: 88

b. WH-DEM type (non-finite form)

- 22) *ui āpom-ba-ni za-pi, ti ŋī-we dūceceli qālti.*
 who hat-ACC-3SG take-COND.CONV that person-ACC tigers want.PRS.PTCP.3PL
 「トラは帽子を取る者を（誰でも）欲しがる。」

ibid. 91

2.2.5. ナーナイ語

Avrorin (1961:256) によると、ナーナイ語では従属節と主節に同じ疑問詞が反復される相関構文があると指摘されている。相関構文の動詞構造を見ると、文として自立可能である終止形と、自立できない非終止形が共に見られる。非終止形に用いられるのは同時副動詞形である *-mi* である。

a. WH-WH type (finite form, non-finite form)

- 23) *ui gelekete-i-ni, ui ne ba-ri-ni.*
 who seek-PRS.PTCP-3SG who surely find-PRS.PTCP-3SG
 「求める者は（誰でも）必ず見つける。」

Avrorin 1961: 256

- 24) *xali cixala-mi, xali ene-m-bi.*
 when want-SIM.CONV when go-PRS-1SG

「私が願うときには（いつでも）行く。」

ibid. 256

b. WH-DEM type (finite form)

- 25) *ui zobo-asī, tei nai zep-tesī.*
 who work-PRS.PTCP.NEG that person eat-PRS.PTCP.NEG
 「働かない者は（誰でも）食べない。」

ibid. 256

2.2.6. オロチ語

Avrorin (2001: 197) では、オロチ語の疑問詞に相関構文を作る機能があると簡略ながら指摘し、その用例を取り上げている。その例文を見ると、疑問詞－疑問詞型と疑問詞－指示詞型の相関構文が共に見られ、従属節の動詞構造には、下記のとおり、非終止形と終止形、両方が見られる。非終止形には同時副動詞形-*mi*が用いられる。

a. WH-WH type (non finite form)

- 26) *ñī kuppi-mi, ñī sǎntola-xa-ñī.*
 who be in time-SIM.CONV who hit with a fist-PST.PTCP-3SG
 「間に合う者は（誰でも）拳骨で殴った。」

Avrorin 2001: 197

b. WH-DEM type (finite form)

- 27) *tei zolo-wo ñī cū ui-le ujī, tei ñæ manga megge.*
 that stone-ACC who most upper-LOC lift.PRS.PTCP that person strong hero
 「あの石を最も高く持ち上げる者は（誰でも）英雄である。」

ibid. 197

2.2.7. ウデヘ語

前章に述べた通り、ウデヘ語には疑問詞－疑問詞型、疑問詞－指示詞型で、非終止形、終止形の相関構文がともに見られる。

2.2.8. ウイルタ語

ウイルタ語文献⁸を参照した結果、疑問詞による相関構文の例は見つからなかった。下記の例⁹は、ウイルタ語の話者に問い合わせ得られた用例である。したがって、これも提示したロシア語に引きずられた可能性がある。下記の例文に基づくかぎり、ウイルタ語の相関構文は、疑問詞－疑問詞型の相関構文は存在せず、疑問詞－指示詞型の相関構文のみが見られる。また、従属節の構造は、終止形と非終止形の両方が確認される。

a. WH-WH type

疑問詞－疑問詞型の相関構文はみあたらない。

⁸ ウイルタ語テキストは池上(2002a, 2002b)を、文法書はPetrova (1967)を参照した。

⁹ ウイルタ語の例文は、ウイルタ語研究者である山田祥子氏の協力により得た。

b. WH-DEM (finite form)

28) *xaali* *sii* *tede-li-si,* *teeli* *baa-li-si.*
 when 2SG.NOM believe-FUT.PTCP-2SG then find-FUT.PTCP-2SG
 「信じるときには（いつでも）見つける。」

b. WH-DEM (non-finite form)

29) *xooni* *anana-mi,* *taraŋaci* *saa-ru.*
 how wish.for-SIM.CONV that way know-IMP.2SG
 「望むように理解しなさい。」

2.2.9. まとめ

以上、相関構文の統語的特徴に基づき、ロシア領ツングース諸語のWH相関構文を分析した結果を下記の表にまとめる。

	type of correlatives		verbal form	
	WH-WH	WH-DEM	non-finite	finite
Evenki	×	○	×	○
Even	×	○	×	○
Negidal	×	○	×	○
Ulcha	○	○	○	○
Nanay	○	○	○	○
Orochi	○	○	○	○
Udihe	○	○	○	○
Uilta	×	○	○	○

表3 ロシア領ツングース諸語の相関構文の統語的特徴

ウイльта語を除くロシア領ツングース諸語における相関構文のタイプと相関構文の動詞構造を見ると、二つのパターンに分かれることが分かる。

- ①疑問詞－指示詞型、終止形：エウエンキー語、エウエン語、ネギダル語、
- ②疑問詞－疑問詞型及び疑問詞－指示詞型、非終止形及び終止形：ウルチャ語、ナーナイ語、オロチ語、ウデヘ語

2.3. ツングース諸語における相関構文の分布

以上ツングース諸語の相関構文に見られる統語的特徴に基づき、その分布を下記の地図に示してみた。以下は、各言語における方言差は考慮せず、筆者が見つけた相関構文の用例に基づいた結果であることをことわっておく。

2.3.1. 相關構文のタイプによるツングース諸語の分布

ツングース諸語の相關構文において従属節と主節に対応する要素に注目し、相關構文のタイプの分布をまとめた結果が次の通りである。

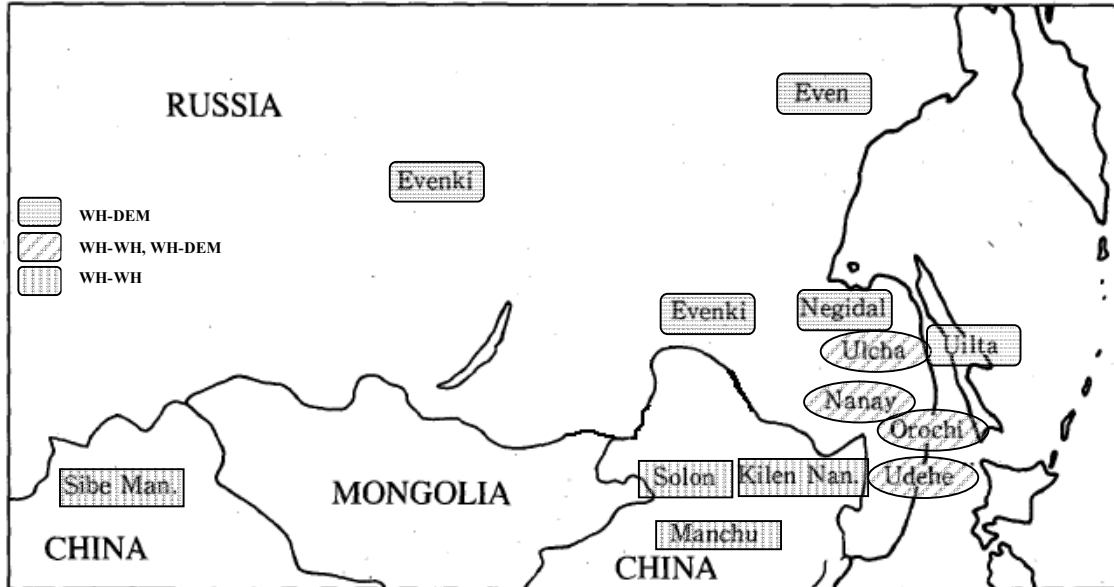


図2 相關構文のタイプに基づくツングース諸語の分布

①WH-WH type

疑問詞－疑問詞型相關構文は、中国領内と中国領近隣のツングース諸語に集中していることが確認できる。一方、それ以外のロシア領ツングース諸語（エウエンキー語、エウエン語、ネギダル語、ウイルタ語）には、同一疑問詞が反復される疑問詞－疑問詞型の相關構文は見つからず、疑問詞－指示詞型の相關構文のみが見られる。

②WH-DEM type

ところが、疑問詞－指示詞型の相關構文は、全てのロシア領ツングース諸語に確認できる。中国領ツングース諸語（ソロン語、ホジェン語、満州語、シベ語）には、従属節の疑問詞と主節の指示詞が対応する疑問詞－指示詞型の相關構文の例は見当たらない。

2.3.2. 相關構文の動詞構造によるツングース諸語の分布

また、相關構文の動詞構造において、文として自立できる終止形をとるか、それとも自立できない非終止形をとるかに注目し、相關構文の分布を検討した結果、次のような傾向が見られた。

①非終止形（non-finite form only）

中国領ツングース諸語（ソロン語、ホジェン語、満洲語、シベ語）の相關構文の構造を分析した結果、それだけでは文として成り立たない非終止形〔条件副動詞（conditional converb）〕のみが用いられている。

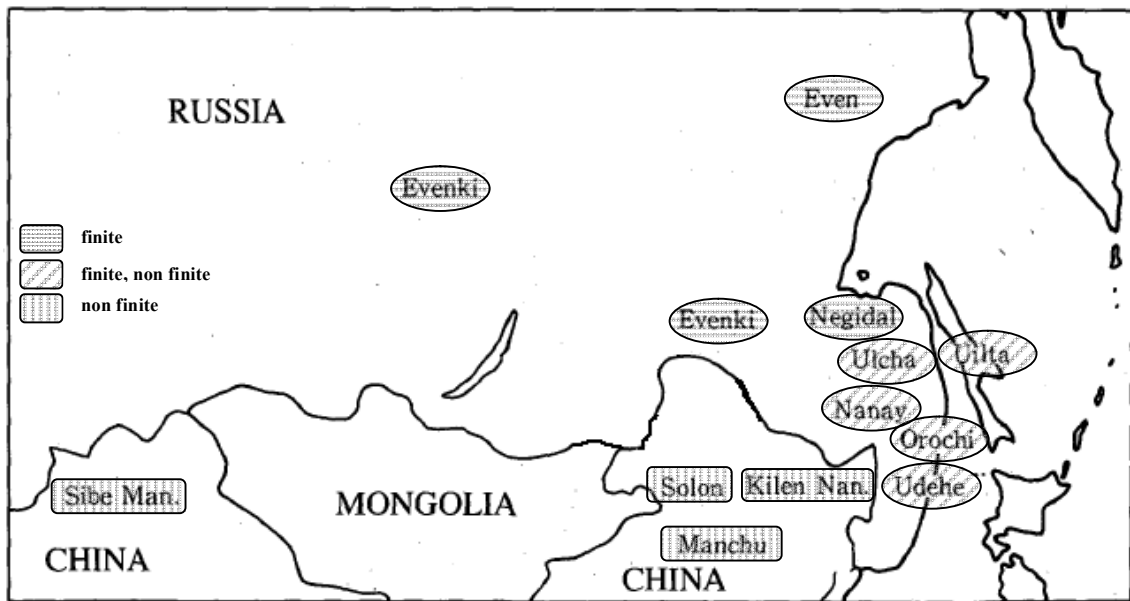


図3 相関構文の動詞構造に基づくツングース諸語の分布

②非終止形・終止形 (non-finite and finite form)

一方、中国領に近いロシア領ツングース諸語（ウルチャ語、ナーナイ語、オロチ語、ウデヘ語、ウイルタ語）におけるWH相関構文は、従属節の動詞構造に終止形と非終止形が共存することが確認できる。

③終止形 (finite form only)

それ以外のロシア領ツングース諸語（エウエンキー語、エウエン語、ネギダル語）のWH相関構文には、終止形のみ見られる。

2.3.3. まとめ

考察の精度を高めるためにはより多くの用例を収集しなければならないが、本稿で集めた用例に基づいて統語レベルで考察を行った結果を下記の表及び図にまとめる。

(C = Chinese type, C+R = Chinese+Russian type, R = Russian type)

C	WH-WH	Solon	Hezhe	Manchu	Sibe
C + R	WH-WH	Ulcha	Nanay	Orochi	Udihe
	WH-DEM				
R	WH-DEM	Evenki	Even	Negidal	Uilta

表4 相関構文のタイプに基づくツングース諸語の分布

C	Non-finite	Solon	Hezhe	Manchu	Sibe	
C + R	Non-finite	Ulcha	Nanay	Orochi	Udihe	Uilta
	Finite					
R	Finite	Evenki	Even	Negidal		

表5 関連構文の動詞構造に基づくツングース諸語の分布

上記の表からも分かる通り、ウデヘ語の関連構文に見られる統語的特徴と同様に、ツングース諸語の関連構文にも分布地域によって、それぞれの地域で大きな力を発揮している大言語と類似している構造が見られることから、中国語とロシア語の影響の可能性が考えられる。

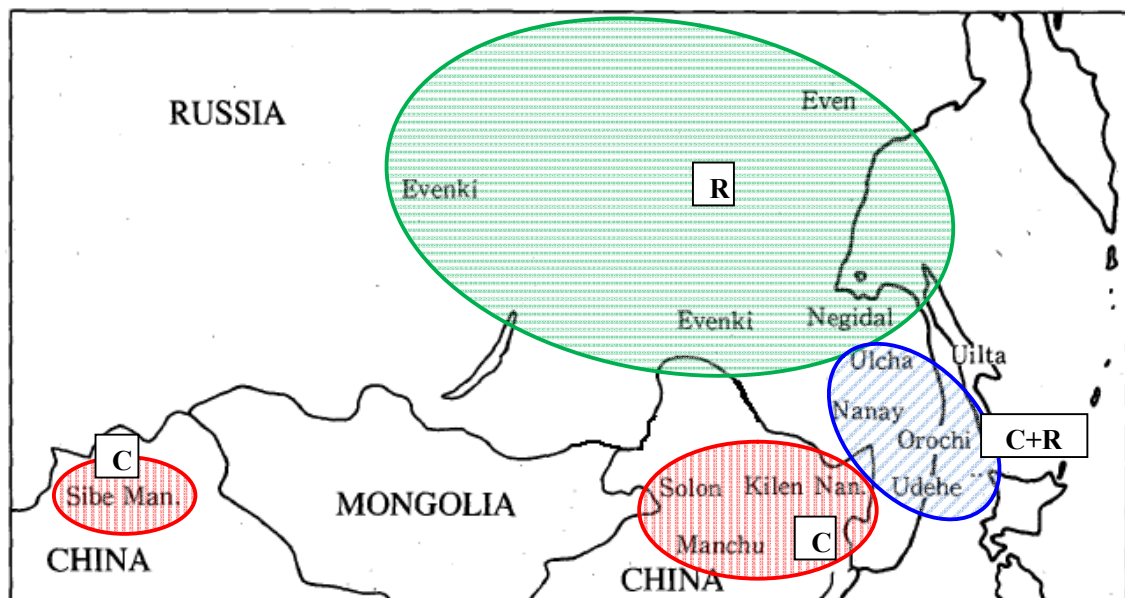


図4 関連構文の類型的特徴に基づくツングース諸語の分布

3. おわりに

本稿では、ウデヘ語のWH関連構文と中国語・ロシア語のWH関連構文との統語的類似性に着目し、ツングース諸語における関連構文の分布に対する類型的考察を行い、中国語・ロシア語の関連構文による言語接触の可能性について検討してみた。

3.1. ツングース諸語のWH関連構文に見られる言語接触

ウデヘ語の関連構文に適用したふたつの基準（関連構文のタイプと関連構文の動詞構造）にもとづき、ツングース諸語の関連構文を類型化した結果は次のとおりである。

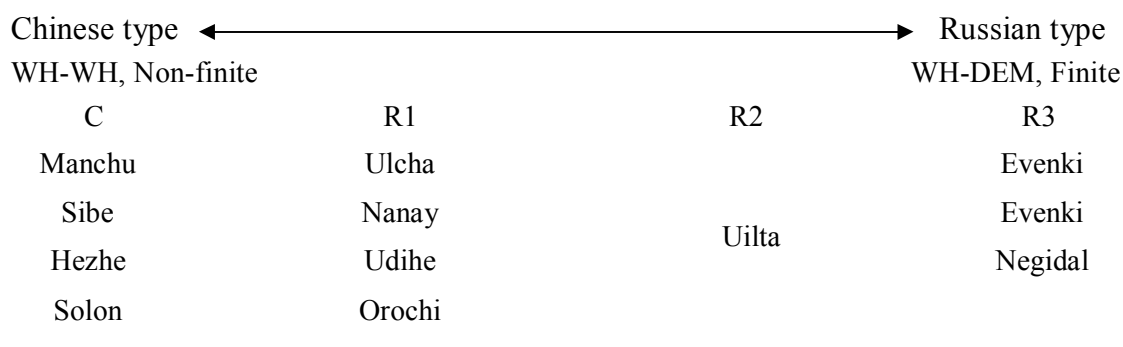


図5 ツングース諸語関連構文の階層

中国領ツングース諸語には、疑問詞－疑問詞型の関連構文のみ見られ、動詞構造は非終止形ですべて条件副動詞形が用いられる。一方、ロシア領のツングース諸語には、三つのグループがみられる。R1のグループでは、疑問詞－疑問詞型、疑問詞－指示詞型の関連構文が混在し、動詞構造も終止形と非終止形が共に見られる。R2のグループでは、疑問詞－指示詞型の関連構文で、終止形と非終止形の動詞構造が混在する。最後のR3グループは、疑問詞－指示詞型の関連構文のみ見られ、動詞構造は終止形のみが確認された。要するに、ツングース諸語の分布地域によって、分布地域の大言語における関連構文と類似した性質が見られ、これは中国語とロシア語からの影響である可能性がある。

3.2. 今後の課題

本稿のツングース諸語のWH関連構文に関する類型的考察には、関連構文の用例が非常に少ない言語も見られる。また本稿で集めた関連構文の用例にはテキストからの自然発話と見られる用例と文法記述や文脈のない例文集からの用例が混じっており、用例の性質が一致していない。したがって、本稿での考察の精度を高めるためには、自然発話が収められているテキストから関連構文の用例を収集し、改めて論証する必要がある。

一方、風間（2003：292）が指摘するようにこの構文が広くアルタイ諸語に見られることから一律に中国語やロシア語の影響とする見方を疑問視する見解もある。これは、比較的近年に起きたと考えられる中国語やロシア語の影響を中心に論じた本稿の方向性とは多少離れているが、アルタイ諸語のWH関連構文における言語接触のプロセスを解明するためには、非常に重要な指摘である。したがって、今までの研究を踏まえ、さらにWH関連構文の言語接触のプロセスを明らかにする必要がある。これについても今後の課題としてい。

[謝辞]

本誌の査読者の方より数多く有意義な指摘と助言をいただいたことに対し、記して感謝申し上げます。

略号一覧

1, 2, 3 : 1st person, 2nd person, 3rd person	INCL : inclusive
ACC : accusative	LOC : locative
CLT : clitics	M : masculine
CNG : connegative	NEG : negative
COND : conditional	NOM : nominative
CONV : converb	OPT : optative mood
DAT : dative	PF : perfective
DEM : demonstrative pronoun	PL : plural
E : epenthesis	PRS : present
EMPH : emphatic	PST : past
EXC : exclusive	PTCP : participle
FINIT : finite	SG : single
FUT : future	SIM : simultaneous converb
GEN : genitive	VBLZ : verbalizer
HAB : habitual	WH : interrogative pronoun
IMP : imperative	= : clitic boundary

参考文献

- Avrorin, V.A. (1961) *Grammatika nanajnskogo jazyka*, 2vols. Leningrad: Nauka.
- Avrorin, V.A. (2000) *Grammatika man'chzhurskogo pis'mennogo jazyka*. Sankt-Peterburg: Nauka.
- Avrorin, V.A. & B.V. Boldyrev. (2001) *Grammatika orochskogo jazyka*. Novosibirsk: Izdatel'stvo. SO RAN.
- Brodskaja, L.M. (1988) *Slozhnopodchinennoe predlozhenie v evenkijskom jazyke*. Novosibirsk: Nauka.
- Bulatova, N.J. & O.P. Sunik. (1987) *Govory evenkov amurskoj oblasti*. Leningrad: Nauka.
- Cheng, L.S & J. Huang. (1996) Two types of donkey sentences. *Natural Languages Semantics* 4: 121-163.
- Ikegami, Jiro. (2001) Versuch einer Klassifikation der tungusischen Sprache. In: *Tsunguusugokenkyuu*: 395-396, Tokyo: Kyuukoshoin (First appeared in: 1974 *Sprache, Geschichte und Kultur der Altaischen Völker, Protokollband der XII. Tagung der Permanent International Altaische Conference 1969 in Berlin*: 271-272, Berlin: Akademie Verlag).
- Leckey, C. E. (1992) *Relative clauses in medieval Russian texts*. California: Graduate division of the University of California at Berkeley.
- Li, Shulan. & Q. Zhong. (1986) *Xiboyu jianzhi* (=A short description of Xibe Language). Beijing: Minzuchubanshe.
- Luo, Q. & S. Crain. (2011) Do Chinese WH-conditionals have relatives in other languages? *Language and Linguistics* 12.4: 753-798.

- Malchukov, A.L. (2008) *Sintaksis evenskogo jazyka: strukturnye, semnaticheskie, kommunikativnye aspekty*. Sankt-Peterburg: Nauka.
- Nikolaeva, Irina & M. Tolskaya. (2001) *A Grammar of Udihe*. Berlin/NewYork: Mouton de Gruyter.
- Pevnov, A.M. & M.M. Khasanova. (2003) *Mify i skazki negidal'tsev*. ELPR publication series: A2-024, Suita: Faculty of Informatics, Osaka Gakuin University.
- Petrova, T.I. (1967) *Jazyk orokov*. Leningrad: Nauka.
- Sunik, O.P. (1985) *Ul'chskij jazyk*. Leningrad: Nauka.
- Tamura, Kenichi. (2008) Grammatical suffixes of Hezhen: with the text 'Antu Mergen' and its English and Japanese translations. *Bulletin of Aichi University of Education Humanities and Social Sciences* 57: 37-54.
- Tsintsius, V.I. (1982) *Negidal'skij jazyk: issledovanija i materialy*. Leningrad: Nauka.
- Tsumagari, Toshiro. (1997) Linguistic diversity and national borders of Tungusic. H. Shoji & J. Janhunen eds. *Northern minority languages: problems of survival (Senri Ethnological Studies no.44)*. Suita: National Museum of Ethnology: 175-186.
- 池上二良 (2002a) 『ツングース・満洲諸語資料訳解』札幌: 北海道大学図書刊行会
- 池上二良 (2002b) 『ウイルタ口頭文芸原文集』(ELPR publication series: A2-013) (ツングース言語文化論集 16) 吹田: 大阪学院大学情報学部
- 池上二良 (2004) 『北方言語叢考』札幌: 北海道大学図書刊行会
- 風間伸次郎 (1996) 「ヘジェン語の系統的位罫について」『言語研究』109: 117-139
- 風間伸次郎 (2002) 『ネギダール語テキストと文法概説』(ELPR publication series: A2-021) (ツングース言語文化論集 19) 吹田: 大阪学院大学情報学部
- 風間伸次郎 (2003) 「アルタイ諸言語の3グループ (チュルク、モンゴル、ツングースおよび朝鮮語、日本語の文法は本当に似ているのか—対照文法の試み)」『日本語系統論の現在』日文研叢書 31、アレキサンダー・ボビン／長田俊樹共編、国際日本化研究センター: 249-340
- 風間伸次郎 (2004) 『ウデヘ語テキスト(A)』(ツングース言語文化論集 24/A) 東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 風間伸次郎 (2007) 『ウデヘ語テキスト3』(ツングース言語文化論集 35) 札幌: 北海道大学大学院文学研究科
- 朝克・津曲敏郎・風間伸次郎編 (1991) 『ソロン語基本例文集』札幌: 北海道大学文学部
- 津曲敏郎 (1996) 「中国・ロシアのツングース諸語」『言語研究』110: 177-191
- 白尚燁 (2011) 「ウデヘ語の疑問詞による相関構文」『北方言語研究』第1号、札幌: 北海道大学大学院文学研究科: 101-114
- 李林静 (2011) 「ホジェン語の会話テキスト (1)」『北方言語研究』第1号、札幌: 北海道大学大学院文学研究科: 197-216

A Typological Contemplation on the Distribution of WH Correlative in the Tungusic Languages

Sangyub BAEK

(Graduate School of Letters, Hokkaido University)

As shown in Baek (2011), Udihe WH correlatives have both characteristics of Chinese WH correlatives (WH-WH type) and Russian WH correlatives (WH-DEM type).

Extending the scope of study to the whole Tungusic languages, this paper aims to contemplate on the distribution of WH correlative in the Tungusic languages from a typological view. Referring to the grammatical and textual materials of the Tungusic languages, the author attempts to classify WH correlative of the Tungusic languages in two types (WH-WH type, WH-DEM type). In addition, second focus is placed on syntactic construction of the first correlative clause to verify whether it could complete a sentence on its own or not.

In conclusion, depending on the location of each language, the Tungusic languages could be arranged in a hierarchy as below.

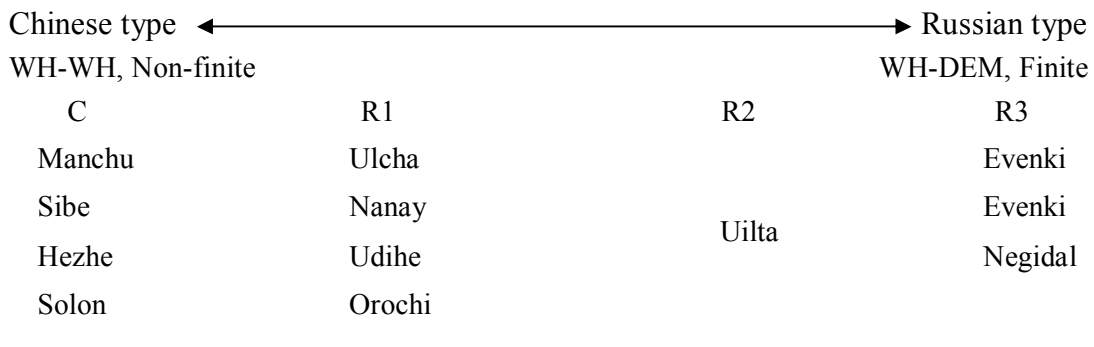


Fig. The hierarchy of Tungusic correlatives

(ベック・サンヤップ iyairaykere@hotmail.co.jp)